

東工大 VG セブンス、角田市 訪問

【日程】 2011 年 12 月 12 日（月）、13 日（火）

【訪問先】（一日目）セブンス立松セブンス小学校、（二日目）角田市、山元町、亘理町

【参加者】 学生 9 名、教員 1 名、職員 2 名

【概要】

一日目は、留学生センター武井直紀教授のリーダーシップのもとに収集された東工大の再生 PC を、このたびの東日本大震災で甚大な被害を受けたセブンス町の教育機関に提供するプロジェクトの一環として、セブンス立松セブンス小学校に再生 PC を設置する作業を行なった。また東工大 VG より主に教育における継続的な支援の提案を行なった。

二日目は、毎年本学の留学生が訪問している角田市を訪問し、市長を始めとする方々と交流を行ない、その後、角田市農業団体のリーダー面川様の案内のもとで、隣接する山元町、亘理町の見学を行なった。セブンス小学校先生方と角田市大友喜助市長には、東工大 VG から教育支援の提案を行なった。

【一日目写真】



セブンス町海岸沿い風景



打合せ風景



再生 PC 設置作業風景

【二日目写真】



面川様との歓談の風景



角田市長との歓談風景



山元町見学

【学生の感想（抜粋要約）】

- 理科教育などの支援の提案については、現地の方々との温度差を感じた。こちらの活動自体には興味を持ってもらったようだが、現地のニーズの把握が不十分だった。
- 角田での放射能の問題が非常に深刻な問題であることを、現地に行って、現地の人と話して、初めてわかった。また放射能に対しての意識や、どのように対応していくかなどの意見が興味深かった。放射能に対する不安にたいして、自分たちが対処できたらなとおもった。
- 山元町の情景が衝撃的だった。その地にたって、先が見えないという感じを興ぜざるを得なかった。テレビなどでは伝わらない被災地の今の現状を知れてよかった。
- 東工大で活動できる地道な作業（実績のある写真洗浄や、そこからの派生）などを中心にしていくのが良いと思いました。もちろん、被災地からの要望であれば、現地で何か活動できることが好ましいですが。今までやってきたことをベースに着実に活動していくのが良いと思います。
- 市長や学校の先生などに直接話をもっていく方法とは別のアプローチが必要かもしれない。我々の立場に近い人たちとの連携の必要性を感じた。
- 綱領のようなものによって東工大 **VG** の活動の方向性を定める必要、戦略を議論する必要がある。
- 団体の方向性や役割がいまいち定まっていないので何か決めたほうが良いと思います。もう一度、参加された教職員の方々を含めて集まって意見交換をしたいと思います。